

曾祖父の口癖

沖縄県立開邦中学校三年 世名城 藍花

「うふおーくかめー」

曾祖父の口癖

食卓につくとすぐに聞こえる
皿の上に食べ物が増えていく
ああいつまでたっても終わらない

「うふおーくあしべー」

曾祖父の口癖

次々と新しい物を買ってきて
溢れそうになるおもちゃ箱
もういらないよ

「うふおーくにんでー」

曾祖父の口癖

枕元に座って頭を撫でてくれた
一晩中ずっと
もう大丈夫だから

「うふおーくかめー」

僕はできなかったから
毎日銃弾から逃げて
隙を見て食べ物を探す
ただ生きるために
何でも口に入れた
野草も蛙も蝸牛も
それでも
手の上の食べ物は減っていく
いつになったら
いつになったら
ああいつまでたっても終わらない

「うふおーくあしべー」

僕はできなかったから
毎日銃を握りしめて
人の命を奪う
ただ生きるために
したいことは何もできなかった
野球も鬼ごっこも缶蹴りも
それでも
奪った命だけが増えていく
いつになったら
いつになったら
ああもういらないよ

「うふおーくにんでー」

僕はできなかったから
毎日不安を抱えて

明日は来ないかもしれない

父も母も弟も

皆いなくなった
ガマの中で息を殺す
ただ生きるために
それでも

いつか母が言ってくれた

言葉を思い出して目を閉じる
もう大丈夫だから

お腹いっぱいにご飯を食べて

青空の下を駆け回り

夜は家族と眠りにつく
そんな当たり前がなかったから

あなたにはそんな思いを

辛さを、悲しみを
味わってほしくはないから

彼の愛がつながって

私はここにいます
今を生きている

私と同じ中学生の少年が

毎日お腹を空かせて
毎日銃を握り

毎日一人で夜を明かす
そんな日々が二度とこないように

そんな「戦争」が二度と起きないように

一人ひとりの愛が繋がって、

好きな物が食べられる
澄んだ青空とガジュマルの木の下で

子供のはしゃぎ声が響く
安心して眠れる場所がある
そんな世界を生きられるように

私たちが

繋いでいく
愛を、想いを、言葉を、

おじいもおばあも
皆が笑って過ごせる世の中を